

## 新素材MMB(マイクロメタルバルーン)を開発

当センターでは、新素材であるMMB(マイクロメタルバルーン)を開発し、記者発表を行いました。

このMMBは、火砕流堆積物であるシラスやその加工品であるシラスバルーンに金属被覆を施し、加熱発泡させることにより製造します。

特徴は次のとおりです。

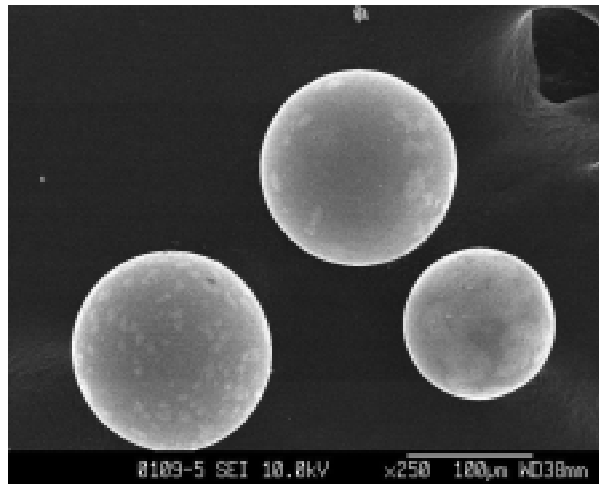
- 1) 真球状で表面が滑らか
- 2) 中空であるため軽量
- 3) サイズが直径0.1~1mmと微小

MMBは平成11年から4年間にわたって進めてきた、宇宙開発事業団(NASDA)との共同研究の中で開発したものです。マランゴニ対流と呼ばれる対流現象解明のための測定装置におけるトレーサ(追跡子)として、利用されることになっており、その有用性が認められています。

現在、製造技術の向上、歩留まり向上、応用分野の開拓に関しての研究を行っており、質の高いMMBおよび製造技術の確立を目指しています。

(特許公開番号:特開2002-241801)

(特許公開番号:特開2002-241805)



MMB電子顕微鏡写真



記者発表風景(平成15年2月5日)

## 第15回鹿児島県生涯学習県民フェア「展示セクション」に出展

かごしま県民大学中央センターオープンを記念して、5月17日にかごしま県民交流センターで、第15回鹿児島県生涯学習県民フェアが開催されました。

当センターからは「工業技術センターと鹿児島県知的所有権センターの紹介パネル」と当センターの研究「仏壇製造技術を利用した小工芸品の開発」から、縁起やしる、木製お地蔵、小物入れ等を、「シラス利用の研究成果」からシラスバルーン、シラス緑化基盤材、シラス瓦について展示しました。

来場した皆さんは、シラスを利用した瓦や仏壇製造技術を生かした開発製品等を手に取ったりし

て熱心に見入っていました。



工技センターの展示コーナー

## 間世田春作 企画情報部長が「優良研究・指導業績」で表彰

去る6月4日、群馬県前橋市で開催された平成15年度全国食品関係試験研究場所長会総会において、企画情報部の間世田春作部長（前 食品工業部長）が優良研究・指導業績の表彰を受けました。この表彰は食品関係産業の発展に大きく寄与した優れた研究・技術成果及び指導実績に対して与えられます。

今回の表彰は、県内の飲料・食品関係企業の排水処理に関して、排水処理装置の設計基準や維持管理法の実際、トラブル対策法など処理技術の普及・指導のために排水処理装置担当者を対象に講習会を開催したり、さらに県内の排水処理装置メーカーに対しては有機性排水処理に対応できるように業種毎に行った排水水質のデータ分析を基に技術指導・支援を行うなど業界の発展に寄与したことが評価されたものです。また、本県の特産品である本格焼酎に関して「地域技術システム開発事業」を導入し、製造分野での焼酎生産システム

の開発や焼酎蒸留粕の性状を明らかにして有効利用方法を検討するなど成果を上げました。その成果は、本格焼酎に関する「システム技術開発プロジェクト」研究の中で本格焼酎製造の自動化、甘藷の省エネタイプの蒸煮装置を開発し、また現在鹿児島県で導入されている焼酎蒸留粕の陸上処理の実用化や発酵飲料などへの有効利用に大きく寄与しています。



## 山角達也 主任研究員と山之内清竜 主任研究員が「木材加工技術賞」を受賞

社団法人日本木材加工技術協会の第48回木材加工技術賞を当センターの山角達也主任研究員及び山之内清竜主任研究員の両名が受賞しました。

この賞はわが国の木材加工・利用に関する産業技術に貢献した業績に対して授与されるものです。

これは、当センターが、県内に多く存在するスギ中目材を信頼性の高い住宅用構造材として活用するために、両名を中心に平成7年度から9年度の3カ年実施した「中小断面集成材の製造システムの開発」の研究開発とその後、フォロー研究として、平成10年度から11年度にかけて「集成材の実用化研究」を実施した一連の業績が評価されたものです。

授賞式は去る5月29日に東京の木材会館で開催された通常総会後に行われました。

この研究開発事業では、産学官からなる研究開発推進委員会を設置し、県内の産業界や行政サイドの協力はもとより、東京大学、鹿児島大学及び

森林総合研究所等から委員の参画を仰ぎながら進められました。また、その後のフォロー研究では供給（製造業）、ユーザー（工務店、ビルダー）、行政（林業振興課、住宅・建築課）の各サイドから成る研究会を立ち上げ、スギ集成材の製造技術の普及と利用促進を図りました。

本事業の成果を受けて、県内で新たに2社の集成材工場が稼働を始めました。

